

海南中学校だより

海南市立海南中学校

海南市日方962-2

☎ (073) 482-0548

HP: <http://www.kai-chu.kainan.ed.jp/>

最新情報はこちらから「海南中学校 教育の窓」↑

発行 令和5年5月24日

No. 2



教育目標

「生き抜く力」を培う

～将来に生きる確かな学力と

豊かな心の育成～

海南中

「わくわくアップ」
プロジェクト
開催中!

生徒の自立に向け
連携・協働する学校



令和元年度以来の「東京」へ

平年より遅めとは言え、沖縄、奄美では梅雨入りとの報道がありました。晴れ上がった空と雨模様が数日おきに繰り返され、近畿地方の梅雨入りも間近かと思われま

す。先日、3年の期間を置き、令和元年度以来「東京」方面が行き先となった修学旅行は3日間とも文句なしの天候に恵まれ、旅程も変更なく実施することができました。新幹線から新横浜駅に降り立った初日の日程は、中華街の散策、山下公園での記念撮影、神奈川芸術劇場での劇団四季ミュージカルの観劇でした。店頭販売を覗き、名物の台湾唐揚げやいちご飴を手にした3年生たちの表情はにこやかで、修学旅行の始まりに気分が高揚している様子が伝わってきました。圧巻は3階席から見下ろしたミュージカルで、途中休憩を挟む3時間に及ぶ上演でしたが、みんな集中して食い入るように舞台を見つめていました。何度も繰り返したカーテンコールも終わり、最上階から階段を下りる生徒たちは、口々に「面白かった…」とつぶやき合っていました。昨年度末、『自己表現フェスティバル』で劇に挑戦した現3年生だからこそ「プロ」が演じる「本物のすごさ」を感じ取ることが

できたのだと思います。観劇後バスに乗り込み、宿泊先の銀座にはレインボーブリッジ経由の高速道を通りました。途中、車窓に飛び込んできた夜景は眩いばかりで、高層ビルの間からオレンジに彩られた東京タワーが見えたときには思わず漏れたため息と響く歓声がバスの中を満たしました。2日目は、上野公園の散策、お台場での昼食、そして待ちに待ったディズニーランド。海中3年生たちも入場したらすぐに「夢の国」の住人になり、頭の上にディズニーキャラクターの耳や帽子やらを載せ、大変な人出の中に消えていきました。浦安での宿泊から明けた3日目。最終日の訪問先は、国会と東京タワーでした。どちらも日本・東京を象徴する建物だけに短い滞在でも強い印象が残りました。

たっぷり詰め込まれた旅程でしたが過ぎてしまうとあっという間の3日間で、目まぐるしく動いている「東京」に少しでも触れたことは、他にはない貴重な体験になったことと思います。これから社会に出るまでの数年間、3年生たちにとって今回の修学旅行がどのような形で生かされていくのか。ともに3日間を過ごした者として、期待とともに想像が広がります。

新型コロナに見舞われたここ数年、子供たちは多くの制限とともに過ごしてきました。ようやく平常に戻りつつある中、息を潜めるようであった生活が将来に生きる彼らにとって何らかの糧となってくれることを願ってやみません。修学旅行の旅程が以前に「戻す」のではなく新たに「変換」したように、他の学校行事も新型コロナ後を見据えながらあらためて形作っていくことを思い描く5月となりました。

全体ミッション「海南中学校にキャッチコピーを！」

先日、お願いした「わくわくアップ」プロジェクトミッションに対し、保護者の皆様からたくさんの「海南中キャッチコピー」をいただきましたのでご紹介します。

「成長の場所 海南中」

「みんな笑顔に！海南中」

「みんな熱盛！海南中」

「海中だよ、全員集合！」

「笑顔溢れる海南中」

「楽しもう！海南中」



「愉快痛快！海南中」

「明日への学び！海南中」

「海より広く大きく！海南中」

「Stand up！海南中」

「絆の強さ！海南中」

「笑顔いっぱい！海南中」

「個性がキラリ☆海南中」

「途上中 海南中 ～わたしたちのカイシンゲキ～」

「ワクワクからはじめよう！一人から全海南中へ！」

「ワクワクな海中生活でキミとボクをアップデート！」

今後ともミッションへのご協力よろしくお願ひします。

(記：日高 一人)

5/16~18
3年生 修学旅行

3年ぶりの東京方面への修学旅行。中華街・山下公園散策・劇団四季観劇・上野班別行動・ディズニーランド・国会議事堂・東京タワーという行程でした。

~5月の風景~



慣れない団体行動に色々失敗もありましたが、かけがえのない思い出となりました。

5/17 2年生校外学習

2年生は京都へ。鈴虫寺で説法を聞き、嵐山・平安神宮・清水寺をたずね、歴史と文化の町・京都を満喫しました。

5/18

KID'S 救命士講習(1・2年生)

一次救命措置によって多くの命が救われることを学び、実際に心肺蘇生法やAEDの使い方を体験しました。

5/17 1年生校外学習

1年生は神戸の「人と防災未来センター」で阪神淡路大震災と防災について学習したあと、神戸市立博物館で開催されているジブリ展へ

朝の委員会活動

朝の清掃活動と挨拶運動。委員会活動も軌道にのってきました。

6月



行事予定



- 1日(木) 3年到達度テスト①
歯科検診
検尿2次
スクールカウンセラー来校
- 2日(金) 検尿2次(予備日)
- 3日(土) 歯口ポスター展(~4日)
- 5日(月) 租税教室
- 7日(水) 交通安全教室
- 8日(木) 学校運営協議会
眼科検診
スクールカウンセラー来校

- 14日(水) スクールカウンセラー来校
- 17日(土) 卓球県大会(県立体育館)
「少年メッセージ2023」海草地方大会
- 21日(水) 期末テスト発表
- 22日(木) スクールカウンセラー来校
- 28日(水) 期末テスト1日目
- 29日(木) 期末テスト2日目
- 30日(金) 期末テスト3日目

親子読書感想文

「54字の物語」



親子読書への御協力ありがとうございました。昨年度に引き続き、氏田雄介著の「意味がわかるとゾクゾクする超短編小説54字の物語」の中から4つのお話を紹介し、感想をいただくとともに、各家庭でもオリジナルの54字の物語を作っていただきました。どの作品も「えっ？それってどういうこと…？」読み手の想像力をかき立てるお話で、解説を読むと、親子でじっくり色々なことを考え、話し合いながら作成してくださったのが伝わってきます。提出していただいた力作の一部を紹介します。

この物語の意味、わかりますか？



「もう無理！これ以上泳げないわ」「そんな事言わずに頑張れ」「だってどうしても無理よ！風が吹いていないもの」

かぶりもの大会。42人が参加。時間が経ってかぶりものを取り出した。まだかぶった人もいる。素顔を早く見たい。

初め、この45字の作品を読んだとき、よくわからなかったけど裏の解説を読んで意味が分かったとき、とてもおもしろいと思いました。他の作品もインターネットで調べてみると、ふつうに読むのと反対から読むので意味が逆になったり文字を逆に書いたりしているおもしろい作品がたくさんありました。いざ自分たちが作ってみようとするのが難しかったです。考えているとき、ちょうどこどもの日でお母さんがつくってくれたかしわもちを食べていると、こいのぼりのことを思い出して、こいのぼりは風が吹かないと泳げないとお母さんと話してこの作品が完成しました。【1年生徒】

どの作品もじっくり読んでみると意味が分かってこの54字の中に深い意味が隠されていて、とても面白いと感じました。実際作ってみようとするとなかなか難しく、あれこれ家族と一緒に考えるのは面白かったです。この様な機会を与えてもらって良かったです。また、色々考えてみたいです。【1年保護者】

自分は陸上の大会やサッカーの大会などで緊張してしまうことが多いので、緊張をテーマにした。「うるさい！静かにして！」という言葉で心臓の音がたくさん鳴っていることを表現した。この作文を作っていく中で、ただ単語を並べて文を作るのだけでは、おもしろくならないということが分かった。【2年生徒】

昨年、同じことをしたので、すんなりと考えつくかと思いきや、少し理解したからこそ、さらに難しくなって大変でした。普通に文章を作って伝えるのではなく、54字だからこそ短い文や言葉に置き換えて、読み手を引きつけ、読み手の想像力で完成させるなんて本当におもしろいです。もっと言葉の引き出しが多ければ必ず伝わる物語になるんだろうなあと奥深さを感じました。【2年保護者】

何を書くかの話になったときに中学校生活のことを書こうという話になりました。入学式のときの気持ちから最近の気持ち、中学校生活でどのような変化があったのか話しました。小学生のときは元気にはしゃいでいたのに中学生になってから大人しくなった友達、その反対に大人しかたけれど元気にはしゃぎ始めた友達、猫をかぶっているように感じられる人と素顔を晒し始めたように感じる人がいました。そんな様子を表現したくて54字の物語に書きました。42人は1年生全員の人数と1年生と関わりの多い先生の人数の和です。クラスメイトの素を知って、みんなと仲良く過ごしていきたいという意味も込めました。うまく書けたかわかりませんが、思いが伝わると嬉しいです。【1年生徒】

54字の物語を考えるのは楽しく、笑い合いながら話し合いました。例文のプリントを参考に、中学校での生活に絡めて書き上げました。4月に入学し仲間が増えた中で初めは緊張して素を出すことができなかったけど、1ヶ月経つと少しずつ自分を出せるようになったそうです。まだ深く話せていないクラスメイトもいるとのことでした。授業でも話し合いの機会を増やしてもらえると嬉しいです。【1年保護者】

「うるさい！静かにして！」こんなことが無くなればいい。でも誰も僕を助けることはできない。「オンユアマークス」



「シロクマだ！」人々
は珍しい動物に大歓
喜。二〇二三年、温暖
化で氷が溶け、シロク
マは人の前に出るほ
かなくなつた。

今回、僕は今世界中で問題になっている地球温暖化について書きました。テレビでシロクマが見れる氷河が近年観光業として栄えている国、地域をみた。人間にとってはいいことだ。しかし、シロクマにとってはどうでしょうか。よくわからない「人類」という生物に毎日のように見られる。そして、氷が溶けて生活する場所が限られてしまうため人の前に出るほかなくなってしまうのです。これが自分だったらもちろん嫌です。動物のためにも地球のためにも温暖化をあらためて減速させていかないといけないと思いました。【3年生徒】

地球温暖化という大きなテーマの中から毎日の生活の中で自分になにができるか、また、他の国ではどういった取組が行われているかを話し合いました。我が子の考え方を知らないいい機会となりました。【3年保護者】

「バタバタ」「ドン！」
「ガシヤン！」どう？
これでいいかな。
「ピロン」やばい。
ドンドンドン。バン。
今はこれでもいいか。

この54字の物語は、友達と遊びに行く日の服を選んでいる物語です。服を選んで「これでいいかな」と思っていたときに、友達からのLINEが来て急いで家を飛び出します。「今はこれでもいいか」は社会人になったときには、もっと時間に余裕をもって準備をしなければいけないが、まだ中学生の内はいいかという気持ちです。効果音をたくさん使うことによって急いでいる様子を分かりやすく表現しました。たくさん苦戦しましたが、1年生のときよりも良い物語ができてよかったです。【2年生徒】

音を使って物語を作りたいという娘の提案で、日々の娘の準備の様子を音で表現し作ってみました。実際、この物語を考えた日の朝もこんな効果音が自宅に響いていました(笑)最後の1文は娘も書いているように、もっと時間に余裕をもって準備ができるように…という親の気持ちも込めてこの1文にしました。時間を守るといふことの大切さをだんだん身に付けていってほしいです。

【2年保護者】

十三回忌の法事を
行っている。一郎。知
らない名前だな。苗字
は俺と同じだ。あれ？
なんで長男の俺が「二
郎」なんだ？

まず、4つの物語と解説を読んでみた。全て最後の一文で話の内容がわかる要素が入れている。もしくは急に視点が変わるような結末になっているなど思った。家族と話し合っていた時に初めの文で設定を思い込ませるのが大事なんじゃないかと思った。例えば①番では主人公が恋人と同居しているのではないかと思ひ込む人がほとんどだろう。このようにあえてミスリードをさせると結末がより際立って面白いのだろう。そう思った。

【3年生徒】

今回の4つのお話で①②は解説無しでは理解できませんでした。自由な発想…もう私は頭がカチカチなんです。でも親子で1つの事に対してお互い考えを言い合って話をする時間は最近ほとんど無いのでとても楽しかったです。うちの子の作品も意味がわかるとジワジワくる設定でよくできていると感じました。

【3年保護者】

流れ星が流れた。肉が
食べたい私は「肉 肉
肉。」と流星が消え
る前に言うことが
できた。翌朝、私の
体は絶望的だった。

「流れ星が消える前に願い事を3回言うと叶う。」というのを聞いたことがありますか。流れ星を見た幼い私は何度も星に願いを唱えました。しかし、流れ星が流れるのはほんの一瞬です。だから省略すればいいと考えました。結果、単語だけ言えばいいという考えに至りました。しかし、単語だけだと、それが欲しいのか、食べたいのかわかりません。私は言葉足らずだと誤解を生んでしまうということを伝えようこの物語を書きました。肉が食べたい主人公は流れ星が消える前に願い事を3回言うことができました。しかしそれは「肉」という単語だけです。肉が食べたいのか肉が見たいのかわかりません。結果、主人公の体に「肉」つまり「脂肪」が与えられたということになります。【3年生徒】

自分の思っている事は、言葉足らずによって誤解を生んでしまうということを短い文章で面白い表現で表わされていると思います。大人にもよくある自分が思い込んで言葉を省略して誤解されてしまう事。気をつけたいものですね。【3年保護者】

